ユニバーサルデザインとアクセシビリティ

だれにでも伝わる情報にするには、どのような工夫があるのだろう

工夫する前（架空の行事の案内）	工夫した後
色だけで区別　→ 色の見え方は人によってちがう （赤は中止、緑は実施）	×中止　○実施
小さくうすい文字　→ 見えにくい人や、遠くからは読めない 受付は体育館の入口で、9時から10時までです	**受付：体育館の入口　9時〜10時**
画像だけで説明　→ 読み上げの機能では、内容が伝わらない （地図の画像だけ。説明の文がない）	代わりの文：「正門を入って右、体育館の入口が受付」
むずかしい言葉だけ　→ 子どもや、日本語に慣れていない人には分かりにくい 雨天時は順延とし、別途通知いたします	**雨のときは、次の日にします（やさしい日本語・ほかの言語も）**

ユニバーサルデザイン

はじめから、年れい・言語・障害の有無などに関わらず、多くの人が使いやすいように作る

アクセシビリティ

だれもが、情報やサービスにたどりつき、利用できること

ユーザビリティ

目的を、迷わず、少ない手間で果たせる使いやすさ

作ったら、色を白黒にしたり、読み上げの機能を使ったりして確かめる。

※ 模式図。案内の内容は架空の例。